

免疫・感染Ⅱ

【Allergy, Immunology, Rheumatology and Infectious Diseases Ⅱ】

担当責任者 教授（第1内科学） 田中 良哉

ねらい

アレルギー性疾患、全身性自己免疫疾患（膠原病疾患、リウマチ性疾患）、免疫不全症、感染症の病因と病態を十分に理解した上で、これらの疾患に関する正しい診断法、及び治療法を習得する。

殊に、発熱・全身倦怠感や関節痛などの全身症状や所見、全身の多臓器障害がもたらす症状と所見を、横断的、且つ多角的に習得することが要求される。また、モデル・コア・カリキュラムのみならず医師国家試験の出題基準にも照合した教育プログラムを立てている。

学修目標

1. 免疫監視機構の概念と、それらの異常・不均衡がもたらすアレルギー性疾患・自己免疫疾患・免疫不全症・感染症の病態機構を理解する。（Ⅱ-1, Ⅱ-5, Ⅱ-6, Ⅱ-10）
2. 各種病原体による感染の成立、感染予防、感染対策を列挙することができる。（Ⅱ-1, Ⅱ-5, Ⅱ-10）
3. アレルギー性疾患・自己免疫疾患・免疫不全症・感染症の症状、理学的所見、検査法、診断法、鑑別診断法を系統立てて列挙し習得する。（Ⅱ-5, Ⅱ-6, Ⅱ-10）
4. これらの疾患群間に併発する病態、治療に用いる薬剤との相互作用、これらの疾患群がもたらす多臓器障害について系統的・多角的に理解する。（Ⅱ-5, Ⅱ-6, Ⅱ-10）
5. これらの疾患群、疾患群間に併発する病態の治療法を系統立てて列挙し理解する。（Ⅱ-5, Ⅱ-6, Ⅱ-10）

事前事後学習の方法

1. シラバスに記載されている授業項目について、参考書などで事前に予習しておくこと。
2. 配布された講義テキストを熟読して講義内容の復習をすること。

成績評価方法・基準

本試験を成績評価とし、60点以上を合格とする。

○ 教科書

1. 日本リウマチ学会編 リウマチ病学テキスト改訂第2版 2016年 診断と治療社
2. 日本アレルギー学会編 臨床医のためのアレルギー診療ガイドブック 2012年 診断と治療社
3. 谷田憲俊編 感染症学 改訂第四版 2010年 診断と治療社

○ 参考書

1. Jameson編 Harrison's Principles of Internal Medicine 第20版 2018年 McGraw Hill出版
2. 矢崎義雄編 内科学 第11版 2017年 朝倉書店

講義:2201講義室

年月日	曜日	時限	授業項目(内容)	コアカリ項目			担当者
				大項目	中項目	小項目	
R3.4.6	火	Ⅲ	膠原病各論Ⅰ(全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群など:医師国試出題基準XI-2-A~B)	E	3	(1)~(3)	田中 良哉
4.13	"	"	" Ⅱ(関節リウマチ:XI-2-R)	"	"	"	"
4.20	"	"	" Ⅲ(強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、混合性結合組織病など:XI-2-C~F)	"	"	"	中山田 真吾
4.27	"	Ⅳ	" Ⅳ(血管炎症候群:XI-2-G~P)	"	"	"	園本 格士朗
5.11	"	"	" Ⅴ(悪性関節リウマチ、成人スチル病、IgG4関連疾患 脊椎関節炎など:XI-2-S~AC)	"	"	"	中山田 真吾
5.18	"	"	原発性・続発性免疫不全症(XI-3-A~O) (※)	"	"	"	齋藤 和義
5.25	"	"	臨床感染学Ⅰ(総論・細菌等 各論) (※)	"	1	(1)~(4)	鈴木 克典
6.1	"	"	" Ⅱ(真菌・ウイルス感染症)ウイルス感染対策・新型コロナウイルス感染対策 (※)	"	"	"	"
6.8	"	"	" Ⅲ(感染防止、新興感染症、再興感染症) (※)	"	"	"	"
6.15	"	"	" Ⅳ(寄生虫感染症) (※)	"	"	"	清水 少一